

平成25年度「重点研究費」研究成果報告書

| | |
|------|--------------------------------|
| 研究課題 | 師範学校時代の歴史的建造物の保存修理・活用に向けた基礎的研究 |
|------|--------------------------------|

研究代表者

| | | |
|------------|-----------|-----------|
| 氏名 鉄矢悦朗 | 所属 芸スポ | 職名 准教授 |
|------------|-----------|-----------|

研究分担者

| | | |
|--|--|--|
| | | |
| | | |
| | | |

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)

本学の東久留米キャンパスに存在する成美荘は、戦前から自然・体験教育の場として、多くの教育者を輩出してきた貴重な木造建物である。しかしながら、その価値は軽視されている。東久留米地区の有効活用の拠点として整備するためにも当該建物の価値を検証する必要がある。

本プロジェクトでは、昭和13年に豊島師範学校から発行された「豊島成美荘」を復刻版「豊島成美荘」として再印刷し、大学教員、附属校教員に配布した。また、シンポジウム「成美荘を考える」を2013年12月11日(水)に隣接した成美教育文化会館のホールにて開催した。

建設当時の報告書「豊島成美荘」によれば、当該建物は、戦前の1936年に竣工し、戦後の変化にも応じてきた近代教育史上稀有な建物である。さらに、当該建物は東京府豊島師範学校の希少な遺構であり木造施設である。また、当該建物のある東久留米市キャンパスは、整備当時の森、畑、川などの田園道場の景観を残しており、当該建物と当時の教育理念を読み取ることができる。現在、全国の小学校で行われている自然・体験活動や宿泊体験などの背景となった思想がここに結実している。

シンポジウムでは、『成美荘は師範学校において「野の道場」として自然を通じた人間形成を目指していた。その点は自然の中で五感を使った直接体験を通して「生きる力」を養成する事を目指す現代の野外教育の取り組みと重なる部分である。』(小森伸一/本学准教授)など重要性の指摘や、『成美荘を設立した成田千里先生のパワフルで行動力のある人柄について、実際のエピソードを交え話をいただいたり、当時の短い16mmフィルムの視聴など、施設にまつわる人々とのかかわり性が明らかにされた(横山正/成美会館長)。

また、師範学校史の視点からも(増田金吾/本学教授)成美荘が誕生した当時の時代背景、成田先生の太平洋戦争の突入しようとしている日本の情勢などを勘案しても、教育に対する強い考えの存在とその価値の高さを評価された。最後に、成美荘については、自然と接する体験学習を重視した日本の教育思想の原点として残して行くべきとの高い評価(藤井健志/本学教授)が加わった。

以上のように、当該の歴史的建物が明らかになってきている。今後も、現地に保存され公開活用されることは、我が国の近代教育史上の重要な文化財となる。同時に、本学のアイデンティティーとしての記念性のある施設の存在は、当時の成美荘のあらゆることを伝えるとともに、教員養成の自校史教育の核として、初年度教育の充実に寄与することが期待できる。

研究成果発表方法

[発表論文名(口頭発表を含む)、氏名、学会誌等名(投稿中・投稿予定・執筆中)を記入する。]
※本経費を用いて、報告書(冊子等)を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。
 なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

【復刻版「豊島成美荘」を作成した。